

がん化学療法レジメン登録書

登録番号：17-171

がん種/レジメン名				実施区分	適応疾患分類	抗癌剤適応分類	
切除不能進行・再発胃癌 毎週アブラキサン療法				点滴静注	日常診療（治療）	進行・再発・転移癌	
						2nd	
1 クールの投与期間 28 日/クール				備考（最大投与回数等）			
Day	投与順	薬品名（成分名）	投与量	単位	溶解液・液量	投与時間	投与ルート
1,8,15	1	デキサート	6.6	mg	生理食塩液 50mL	15min	Div.
	2	アブラキサン	100	mg/m ²	生理食塩液 アブラキサン 1V あたり 20ml にて溶解	30min	Div.
	3				生理食塩液 50mL	5min	Div..

【投与開始基準】 *アブラキサン適正使用ガイド【胃癌】より

項目	基準値及び症状
PS	0~2
白血球	≧12000/μL
好中球	≧1500/μL
血小板	≧100000/μL
ヘモグロビン値	≧8.0g/dL
AST,ALT (原疾患に起因又は肝転移を有する場合)	≦ULN×2.5 倍 (≦ULN×5 倍)
T-Bil	≦1.5mg/dL
Scr	≦1.5mg/dL
心電図	臨床上一問題となる異常所見なし
末梢神経障害	≦Grade 1

【投与量の減量基準】 *アブラキサン適正使用ガイド【胃癌】より

項目	減量の目安	減量段階	アブラキサン投与量
好中球減少	Grade 4	通常投与量	100mg/m ²
発熱性好中球減少症	発現	1 段階減量	80mg/m ²
血小板減少	Grade 4	2 段階減量	60mg/m ²
AST, ALT	医師が同一用量で投与継続困難と判断		
末梢神経障害	≧Grade 3※		
皮膚障害	≧Grade 2		
粘膜炎又は下痢	≧Grade 3		
非血液毒性(脱毛を除く)	≧Grade 3		

※≦Grade 2 でも減量を考慮

【投与の目安】 *アブラキサン適正使用ガイド【胃癌】より

<Day8, 15、次コースの投与の目安>

項目	コース内投与基準/次コース開始基準
好中球	≧1000/μL
発熱性好中球減少症	認めない/回復
血小板	≧75000/μL
AST,ALT (原疾患に起因又は肝転移を有する場合)	≦ULN×2.5 倍 (≦ULN×5 倍)
末梢神経障害	≦Grade 2
皮膚障害	≦Grade 1
粘膜炎又は下痢	≦Grade 1
非血液毒性(脱毛を除く)	≦Grade 2

注) Day8 の投与がスキップされ、かつ Day15 の投与もスキップされる場合は、Day22 以降に次コースの Day1 の投与を行う。
Day15 の投与がスキップされる場合は、Day22 以降に次コースの Day1 の投与を行う。

【特に注意すべき副作用と対策】

白血球減少、好中球減少・・・症状に応じ、内服もしくは点滴静注にて抗生剤の投与、G-CSF 製剤の使用を考慮 (FN 診療ガイドライン、G-CSF 製剤使用についてのガイドラインに準じ対応)
ヘモグロビン減少・・・症状に応じ、輸血を考慮(血液製剤の使用指針に準じ対応)
血小板減少・・・症状に応じ、輸血を考慮(血小板輸血に関するガイドラインに準じ対応)
末梢神経障害・・・症状に応じ、減量や休薬を検討
黄斑浮腫・・・視力低下等の眼の異常があらわれた場合には早期に眼科医に相談。黄斑浮腫が確認された場合には休薬、中止等を検討
間質性肺疾患・・・定期的な胸部 X 線検査と必要時に胸部 CT、PaO2 等の検査を行い、異常が認められた場合は投与を中止し、適切な処置を行う
脳神経麻痺・・・症状に応じ、減量や休薬を検討

※当院作成の【外来化学療法施行患者における緊急時対応マニュアル】を参照